序言

×
k 26
×
493.13
Ka-1

本書ハ金澤醫學校教頭和蘭博士佩爾再傳氏ノ撰述ニ係リ曾テ田從三氏ノ飜訳ヲ經テ從ニ教授セラレタルモノタリ其ノ旨タル十一專ラ夏秋ノ際ノ腳気病ヲ以テ記述シ之ニ罹リモノ多ハ惡性ニシテ死ニ至ル時ニ教頭漢病室ノ備ヲ知リ優ク誤病ノ治療ノ異違センコトヲ望ミ專ラ重作ヲ說約シ病理治療モ洋ニセサルヲ以テ別ニ題目ヲ付シタル書ナリ教頭自家ノ實驗ト其蘭醫ノ印度ニ在テ諸島ニ居留セル諸大家ヨリ實地ノ經驗說話ヲ書ニ記シ折衷抄譯シタルモノナリ余

493.13
K2-1

慶應義塾大学医学情報センター
昭和47年7月12日

No. 2490
旧 K 26

富士川文庫
2868

脚気

脚気ノ条

脚気ノ発セル場処ニ基ク諸説

Beriberi = eigl. Lähmung, Lähmung

Combinationsnode 脚気病

脚気ノ発セル最初ハ貧血ヲ来シ漸次ニ

貧血増加シ終ニ諸部ニ水腫ヲ発シ麻痺ニ陥リ

遂ニ四肢ノ衰弱甚シク心悸亢盛ニ貧血

ヲ来シ之ヲ放置スレバ死ニ至ルモノアリ

又一旦治セルモ再ビ発スルモノアリ

又一旦治セルモ再ビ発スルモノアリ

又一旦治セルモ再ビ発ス

アンギイヨタス
症ノ心鳴ヲ聞キ脈ノ違ハヌヨリ好カタルケ
ヲ生ジ痙攣ヲ起ス神
經性痙攣ヲ頻ニ
ヲ前ニ知覚
之ヲナカラシトヲ
Stupeur 昏睡
ス女ニ多ク
復發ヲ免レス
貧血ニ基因スルモノニシテ
Anesthesie paralysie
ヲ見ル殺ス
短息ヲ
別ハ脊椎
間質ノ
ヒテ、トウ
誤運動
短息ヲ
ヨリナリ

脳実患者
ノ症ハ
水腫ニ
進ム心臓ノ
之ニ次ク
ル新陳
衛ニ
ノ如シ
Stupeur
ヲ同症ト
ヲ現ス
ニ脳実患
ハ水腫
症ノ前駆症ハ著シカラスシテ実ニ経過ス多ク
緩慢ナリ Stupeur 昏睡
漸ニ危性ヲ
Anesthesie 知覚麻痺
血ヲ乏シ貧
氏症理通論中ニ
水腫条下ニ詳論セシモ
主婦人ノ
ヲ同症ト
ナモノトス
ヘ脳実ニ
虚脱ヲ
ノ如シ
症ノ心鳴ヲ聞キ脈ノ違ハヌヨリ好カタルケ
ヲ生ジ痙攣ヲ起ス神
經性痙攣ヲ頻ニ
ヲ前ニ知覚
之ヲナカラシトヲ
Stupeur 昏睡
ス女ニ多ク
復發ヲ免レス
貧血ニ基因スルモノニシテ
Anesthesie paralysie
ヲ見ル殺ス
短息ヲ
別ハ脊椎
間質ノ
ヒテ、トウ
誤運動
短息ヲ
ヨリナリ

手ヨリ
膊膺ノ手
帳ニ載ハヨシ
他ヤカン

脚気ノ如キ或ハ未朝ニ異ナル異症
中ニ未ダ心臓
症ヲカンテ手
症ハ自覚他覚症ノ差アリ顔色蒼白
慢性腹膜炎ノ
ケ之ハ腹ニ
ナリ腹ニ
ナリ
ナリ
ナリ

Ceylon

Bruhschen Bucht Ceylon Insel Bengalen Bay Madras Pondicherry Karikal Negapatam Cuddalore Madras Pulicat Nellore Madras Bengalen Bay Madras Bengalen Bay

痘ヲ施ベリ下ニ云フ英属及ヒ蘭属印度地方ニ於テ海軍駐留皆リ経験痲痺ニ付キ考フルニ初度ニ於テハ「ビルマ」ト称スル痲日本ニ於テ脚気ト称スルモノト同症タルヲ知ル之ト雨気候ノ南部ニ起ル亜細亜地方ニ於テ一時カタクノ人ヲ侵スヲ以テ日本支那ニ於テ処ヲ他和蘭軍医ハ印度七嶋Borneo, Sumatra, Java, Celebes等並ニ白島ハ大ナル他ノ三島ヲ称シ英軍医

Ceylon

Bruhschen Bucht Ceylon Insel Bengalen Bay Madras Pondicherry Karikal Negapatam Cuddalore Madras Pulicat Nellore Madras Bengalen Bay Madras Bengalen Bay

岸ecloon ヲ始メ又 Coromandel ヨリ Sangam ノ亜部ニ至ル地ニ於テ痲又 hinterlosta ヲ始メ Circars ニ於テモ之ト症ノ類セル之ノ地ハ Bengalen 湾ノ西奇ニヲ亜半球ノ十度ヨリ二十度ノ間ニ位スル之ノ地ニ於テ痲流行セル南ヨリ Madras ナラン之ノ地ハ亜半球ノ十三度ヨリ位スル之ノ他脚気地球上莫迦ハ琴牙詳ナラス何ナレハ蘭属印度ニ支那ニ於

ニ至レリ而シテ當局屬吏屬官ノ如キ
其ノ任民之ニ罹リ洋人モ之ヲ患ヘサル
ナシテ又先ツ其ノ衛生ノ事ヲ務ムルニ
曾ノ人民又ハ水土等ニ因リ疾病ニ
罹ル者多キヲ以テ仍テ洋人之ヲ病ム
罹ル件ノ多キ所ヲ免シ其ノ死者ヲ土民ニ比較
スルニ二倍ノ如シ洋人ノ多ク起ル
真ノ土地ノ氣候ニ慣レサルニ加ヘ水土ノ惡
濁生ス所ニシテ暴風雨ノ劇シキ時ニ當リ
ハモノ多キニ由ル云ヒ皇國ニ於テハ未タ

ニ洋人ヲ居留地ニ置キ近傍ノ
ニ住居セシメタル事ノ證拠
ナキヲ以テ放チ立ノ病ノ蔓延
皇國ニ於テモ東タ立ノ病ノ蔓延
ヲ防ク方ニ當テ改廃未タ有
地ヲ探偵セサル方ニ立ノ病ノ
ノ備生ヲ講ルカ故ニ其日ニメ
ヲ以テ他病ノ標ヲ屠ル

脚気病標(徴)候ハ十キヲ以テ主ニ因テ死ヲ
ルノ負並ニ(ハ未ノ)疑問ニ(ス)
(原因論)(ス)
脚気ノ原因ハ未タ充分ニ(ス)
(ス)
経験上ヨリ(ス)ル(ス)
誘因ニ由テ左ノ(ス)
(ス)ル(ス)
物腐敗シ物ニ悪味ヲ発生(ス)等シ之ヲ嚥
呼吸スルニ因ル○夏日炎熱ニヲ夜ニ至テ
甚ケシク寒暖ノ差ヲ生シ或ハ突然中暑

○元因ニ由テ流行スルヤ否ヤニ由ル○極物性
食物ヲ常食シ(ス)動物性食物ヲ少食スル
者ハ○又過度ノ運動ヲ為シ○又ハ稲粉
ノ地ヲ立中ニ住ム者○又常ニ井水ヲ飲ム
ヲ常トスル者○又ハ常ニ多量ノ塩ヲ含ム
鐵ヲ食シ(ス)モノ○海辺ノ漁夫
ノ如キ○湿地上ニ家屋ヲ建ツル者○又ハ常ニ
ヲ開ク○又ハ夏日夜間屋外ニ
ニ卧スルニ因ル○(ス)
養病法ノ要領其他質疑ノ(ス)

痕ノ元因トナル
根源ナルハ借
ニ在テ継続セル
湿地ノ家屋ニ
等疾ノ根源ト
増悪ナラシムル
一新築ノ
害招ク許セリ
同病ニ至ル
ニ堕ル体ノ便
ト為ス
ルハ
校新築ノ日尚
セタル室中ニ
湿地ニ他ナル
新地ヲ
ナリト云フ
ナバ
験セシ件ニ
テ脳気ノ主ト
ノ辺而
中脳新
ト為ス
ルハ

タル時ニ當リ佐田人物等ニ憲ヒ
相互ニ御手傳ヒ有之度人民一
ヒ之中ニ適ニ泥水ヲ通シ田畑ヲ
斷ニ因リ地價ヲ知ル前ヲ
人民ノ急ニ
ニ御ノ主ノ河井ハ多量ノ水ヲ堰
留堰堰マクヲ
各高ニ下ヲ
ヲ中ハ荷ニ
民燃ヲ
硬井ヨリ若シ主ヲ

悪ニ非ス他ノ地ニ流行セシ時ニ於テモ悪者ハ必ス先ツ此地ニ感染シ
ラ悪ニ非ス他ノ地ニ流行セシ時ニ於テモ悪者ハ必ス先ツ此地ニ感染シ
タルモノニシテ決シテ清潔ノ地ニ於テ悪者ヲ発スルコトナシ
高層地ニ移居セシメ清潔ノ地ニ於テ悪者ヲ発スルコトナシ

西洋ニ於テハ
之ノ主因ヲ
黄疸病
脳気
脳気ノ未発
地方ニ皆十之
方ニハ之ヲ
腦髄
神経
腦気患者ニ向
脳気ヲ
腦気ノ病原
脳気ヲ
脳気ノ病原
脳気ヲ
脳気ノ病原
脳気ヲ
脳

説ノ可否ニ従ヒ克ク看護ヲ加ヘ克ク
ノ如ク動ク例ヘハ沈重ナル看護ト軽
ニ流レ乾燥ハ心脳ノ病ヲ増張肥大セシ
ナリ真ノ断ハ有
白色ニシテ弛緩ス着ノ性述ル毛ノ慢性ヲ
要用ヒ心悸亢進ヲ離浮ハ屡ハ心臓ノ
違ヒ性
エリ注掖ニ由テ病苑駆ヲ解
剖セル体ニ於テ掖タル者ハ皆ナ皮膚ヲ浮腫肺浮腫肝鬱水腫急性肺

水腫肺鬱血肺浮腫心臓水腫左側
動ノ化脳大ナリ又他身体諸組織ニ蒼白
色ニシテ水気ヲ帯ヒ鮮剖ニ由テモ
ニ定ムヘキ克ク
立ニ来ル例ヘハ湯出スルヲ知ルニキノー皇國ニ於
モ活日医学進歩ニ従テ脳気ヲ病屍ヲ解
剖シ精密ニ之ヲ査考シ来ル例ヘハ人ノ掖出シ克
ルカンモノヲ採用シ脳ヲ病理ヲ解述セシテ人
遠カテサルニ従フ倍ノ疑ノサルヤリ之ヲ知ラシムル

ニ於テハ皇國人民ハ十ニ九ケ年
幸福ヲ得一ニ同憂ノ医員ニ注眼ヲ
勉所徹底ヲ感報セン
ト欲望ヲ洋人カ心思ヲ第ケ國ノ痲体術
症候種類往通等

御免ニ他ニ多発ノ物ニシテ chronic
(真ノ)慢性症ニ acute of the
ニシテ十カ
朝ニ別ケ得
朝ケ一朝ニ痲発ヨリ著ク水腫

ヲ来ス二至ル二朝ハ著キ水腫ヲ来サヽヨリ腎
浮腫心臓水腫肺水腫ノ危物症ヲ発スル
至ル迄ヲ石川醫人ハ胸気ヲ乾咳ノ
二種トス乾咳ハ慢性症ノ一朝ニ湿胸
ヲ八朝ニ他ナラス之ハ慢性胸気ナリ
患者通常ノ如ク咳ニ起リ漸ク下胸ニ止リ時ニ
之部ニ起リ漸ク下胸ニ止リ時ニハ
服部ニ達スルヿアリ之ハ発見ヲ未セシ所ニ通常
多ク知覚麻痺ノ肌膚ニ注ス亜ノ亜ノ赤
痛モ足部ヨリ初ノ大王急覚 大抵ヨリ

初ノ中ハ足指ヨリ起ル通常両足ヲ後ノ
如ク多ノ患者ハ初メ麻痺ナク度ハ初メ足指ヨリ立ノ
患者ハ知覚麻痺部ヲ細ク二紙大ノ綿ヲ
以テ被フカ如キ感覚ヲ許ス切上ノ知覚
麻痺ハ通常足部ヨリ初ルモノニシテ他部
ヨリスルハ稀シ盖シ此ノ間特ニ指頭ニ麻
痺ヲ覚エルヨリ称シテ初期異常ト
国ニ麻痺ノ一面婦人ノ中
指ニシテ麻痺ヲ訴ルハ皆ノ能ク意
ヲ要ス耳ロ国ニ就テハ一般ノ注意ヲ
乏ヲ訴ヌレハ屢ヽ誤診シテ
シハ患者指頭ニ麻痺ヲ来ス
ヨリテ細ク観察スルヨリ初メテ異常
ヲ知ル前ニ述ヘタル如ク
足指ヨリ起ル通常両足ヲ侵カ
多ク患者ハ初メ足指ヨリ立ノ
麻痺ヲ覚エ麻痺部ヲ細ク二紙大ノ綿ヲ
以テ被フカ如キ感覚ヲ許ス切上ノ知覚
麻痺ハ通常足部ヨリ初ルモノニシテ他部
ヨリスルハ稀シ盖シ此ノ間特ニ指頭ニ麻
痺ヲ覚エルヨリ称シテ初期異常ト
国ニ麻痺ノ一面婦人ノ中
指ニシテ麻痺ヲ訴ヌレハ屢ヽ誤診シテ
シハ患者指頭ニ麻痺ヲ来ス
ヨリテ細ク観察スルヨリ初メテ異常
ヲ知ル前ニ述ヘタル如ク
足指ヨリ起ル通常両足ヲ侵カ
多ク患者ハ初メ足指ヨリ立ノ
麻痺ヲ覚エ麻痺部ヲ細ク二紙大ノ綿ヲ
以テ被フカ如キ感覚ヲ許ス切上ノ知覚
麻痺ハ通常足部ヨリ初ルモノニシテ他部
ヨリスルハ稀シ盖シ此ノ間特ニ指頭ニ麻
痺ヲ覚エルヨリ称シテ初期異常ト
国ニ麻痺ノ一面婦人ノ中
指ニシテ麻痺ヲ訴ヌレハ屢ヽ誤診シテ
シハ患者指頭ニ麻痺ヲ来ス
ヨリテ細ク観察スルヨリ初メテ異常
ヲ知ル前ニ述ヘタル如ク
足指ヨリ起ル通常両足ヲ侵カ
多ク患者ハ初メ足指ヨリ立ノ
麻痺ヲ覚エ麻痺部ヲ細ク二紙大ノ綿ヲ
以テ被フカ如キ感覚ヲ許ス切上ノ知覚
麻痺ハ通常足部ヨリ初ルモノニシテ他部
ヨリスルハ稀シ盖シ此ノ間特ニ指頭ニ麻
痺ヲ覚エルヨリ称シテ初期異常ト
国ニ麻痺ノ一面婦人ノ中
指ニシテ麻痺ヲ訴ヌレハ屢ヽ誤診シテ
シハ患者指頭ニ麻痺ヲ来ス
ヨリテ細ク観察スルヨリ初メテ異常
ヲ知ル前ニ述ヘタル如ク

恐ノ運動麻痺ノ初期ニ於テ
意識
ハタシテ二ノ感
ニモ僅リニ
色ノ褪出シ猶
キナラシテ

= obstipation

通常ナラサルヲ感シ
上昇セントスル意着屢
覚ノ尿通減シ
為ニ多ハ便秘
膜ニ蒼白色ヲ呈シ
池狀ノ蒼白色ヲ呈シ
着運動ヲ缺キ
息及ビ心悸充盈
難キ水腫ヲ
ニ於テ之ヲ
意着ニ適当ナル
施サンカ為ニ
痺漸次ニ増悪シ
オニ方ニ進ム
歩行困難ト
動ニ充チ
運動麻痺
ト雖モ之ノ
時間又ノ割
必麻痺ニ
尋常ノ
心臓ノ
時ニ至テハ
ノ如キ意着ニ
精神ヲ
ノ来タラス
ノ来タラス
ノ来タラス

し胸部ニ苦悶ノ覚ヒ稀ニ通常ノ程度ヲ増加スルコトアルモ其数且ツ尠ク
症ノ系ラス動悸亢進ノ如キ胃部ニ壓重ヲ覚ヒ
脈数食思減シ右宮ノ帯リ利尿減シ屢
帯赤ク尿量ハ多分増加シ量ハ八合
四合ノ如キ利尿亢進ヲ覚ヒ殊ニ減シ遂ニ一日間ニ
排泄スル量甚タ尠ク又ハ全ク尿閉
ス尿中ニ蛋白僅ニ存シ其量甚タ
大ナラサルヲ以テ尿量ハ僅ニ蛋白僅ヲ

量増加スルニ伴ヒ水腫頻ニ蔓延シ一朝ヨリ二朝
ニ物行ス当驟ニ水腫ノ蔓延シ一朝ヨリ二朝
ノ経過期時間ノ差アリテ数ヒ症ノ軽重
間ニテ然リ数ヒ症ハ甚タ久
キヲ要シテ治スル症ハ功ヲ経過間ニ症勢
漸次増悪スルノ傾向アリ尿量ハ多分ノ増加ヲ
見ルモ利尿ノ程度ハ尚ホ尠ク
ニ物ノ着キ悪シテ只ニ朝ニ望ニハ殆ト一朝ヨリ
モ翌朝ハ増悪ノ状ニ水腫増加シ利尿減ス

ルヽ仰ヽ才一
及ヒ治ヽニ当テ
往返中ハ危峰
十リ之ヲ見ル
ヲ承ヽ遂ニ
ナルヘキ患有
幸ヒヽ十ル才ニ
佐倶ニ服頗
ヌルヲヽ
ヽ運動療
難ヲ第一ニ
運動療
ヽ運動療
ヽ運動療
ヽ

悪者ヲ危嶮ナリト為ス故ニ
外部ニ泌ル汚出危嶮ニ来ス悪アリ
如来悪者ノ屢ゝ危嶮ニ陥リ勢増悪ヲ以テ
急性ニ移行スル恐アルヲ以テ屢ゝ試ム
治療ヲ行フ方ハ容易ノ治ス物ニ如来悪
者治療セサルヲ以テ屢ゝ青色ノ呈シ皿ヲ以テ
心部ニ鵐鳴ヲ異ノ若シ玉悪者急性ニ徒
ラニ泌ル外部ニ汚出ヲ来サルヲ以テ諸症候悪

ニ屢ゝ悪者ヲ要シ日要間ニ死ニ陥ラシムルヲ
而ノ全身衰弱肌動悸呼吸困難心悸亢盛知覚遅
鈍運動麻痺腹膜腹水腹水ノ勢ニ乗ジ腹膜ヲ刺通シ
浮腫ニ由テ腫起シ顔貌ヲ変ジ顔面及全身ノ皮膚殊ニ指趾頭
刺スルモ克ク顔面及全身ノ皮膚殊ニ指趾頭
ヒヤリーセンヲ表シ蒼青色ヲ呈シ心臓麻痺
脈ノ動絶微弱ニシテ血液ノ循環ヲ営ム能ハス
ニ陥リ血液ノ変化ヲ来シ尿ノ分泌減少シ尿毒
症ヲ発シ痙攣ヲ起シ昏睡ニ陥リ死ス而シテ
死後ニ於テ胸腔腹腔心嚢ニ泌出セル汚液漏レ血汁ヲ呈シ
ノ障害ヲ来ス由

ナ起ルモノニテ甚タ劇キモノニ非ス患者ハ自ラ
運動シ克ク他人ノ補助ニ由ラス能ク臥位
ヲ轉ス得ル病勢ニ至レハ患者若
クハ附添人ニ於テ多少ノ注意ヲ要シ間断ナク
頭ニ氷嚢ヲ施シ氷嚢ヲ取リ換ヘ又ハ冷水ヲ以テ
絞リ手拭ヲ以テ頭ヲ冷スヘシ此ノ場合ニ於テ心臓
ノ動悸ヲ増シ又ハ呼吸ノ困難ヲ来タスカ如キ
ハ氷嚢ヲ施スヲ止メ又ハ氷嚢ヲ取リ換フル
ニ際シ其ノ動悸ヲ増シ又ハ呼吸ヲ困難ニ
セサルモ尚ホ他ノ病ノ物ニ施ス如キ指撃ヲ
加ヘラレタル時ハ直ニ氷嚢ヲ取リ
去ルヘシ

之レ施スルヤ恐クハ心臓ノ時ニ呼吸ノ困難
ヲ為ニ望ミ又ニ由リモノナラン
（二）急性肺炎（肺臓炎）ノ治療
急性肺炎ニ罹リタル時ハ只熱ヲ後発シ
来ル性ノ症ニ非ス最モ劇キ性ノ症ニ
シテ之ニ対スル治療ニ於テハ前記施ク
所ノ患者健康ナル時ニ於ケル注意ヲ要シ
少ノ疲労ヲ覚ユル時ニ於テモ全ク
不能ノ使用ヲ為サヽルヲ以テ麻痺ノ速
ニ増加シ終ニ全身脳神経ヲ侵シ
時ニ全身脳神経ヲ侵シ
恐ラク患者ハ苦悶ノ間ニ死ヲ
終ラン（二時ヲ要スルモノアリ）
ナリ

赤色ヲ帯ヒ大ニ動脈ノ搏動増加シ脈ハ速ヤカニ而シテ強ク
而シテ身ノ脈搏ハ差異ナシ又ハ稍々遅緩ナリ
急性脳充血ニ於テハ差異ナシ又ハ稍々遅緩ナリ
而シテ脳ノ証候ハ急ニ発シ頭痛譫語ヲ
伴ヒ或ハ急性脳炎ニ於テハ頭痛譫語ヲ
伴ヒ或ハ急性脳軟化ニ於テハ半身不遂ヲ
来シ或ハ急性脳膜炎ニ於テハ頭痛譫語ヲ
伴ヒ

若シ脳疾病ニ罹リ著キ時ハ其ノ際病症ノ
動ヲ知覚及ヒ運動麻痺貧血心臓擾
脈水腫腹水心悸亢進短息心部煩悶
ノ症ノ主発現ニ外他病ト雖モ
病症経過等ニ論ナク脳ノ病ト異常
経過ニ外ナラス運動麻痺ヲ最初ノ指頭ニ麻痺
並ニ麻痺ヲ来ス外ナラス知覚麻痺ハ運動麻痺
ヨリ多ク感ス知覚麻痺ハ始メ症ハ軽ク他病ト
誤診シ易ク感症ニ次ニ至症候中最モ
又七ツ血ノ他症ヲ招ク事常ノ
貧血症ト誤リ又如何ニ消化機
障害ノ為ニスルヤ脳質病ト誤ル
ヤウ又脳性脳気病ニ於テハ知覚
及ヒ運動麻痺心悸亢進貧血ノ
若シ之ノ貧血症ニ異ル所ハ譫語
ナク又脳気ノ急ト慢性ノ有リ
慢性ニ於テハ発熱ト脈速ト
経過速カナル慢性ニ於テハ発熱
ナク脈速ク微弱ニ於テハ体温亢盛ヲ

性ノ者朝ニ於テ体温亢盛又ハ悪寒ノ来
ル前ハ別病ト極ノ発施ノ譫語等アリ注
病ト皿ツ云ニ乾者皆ハ兼テ重症ト
性極テ譫妄ヲ発シ其氏知覚表ト運動痛ヲ
多リ如ク千般ニ変化アリ又一慢性病ニシテ
来リ甚シキ故ニ麻痺ノ程度ニ於テハ
予ト其ノ地方ヲ異ニスルモノアリ
物ニ病ト性脚気ノ輪核症候
症候ハ全身疲労ヲ感シ運動ニ麻痺顫振痙攣
痙攣ヲ生ジ又ハ腓腸筋ノ硬結ヲ来ス
皿ツ云ノ病ノ腓

同一場所同一疾圏ニ関ヲ発ス而ノ同一ノ地方
ヲ襲フモノニシテ即チ一度ニ罹リタル地方ノ医師ハ之ヲ免ル
ヲ得ルモ他ノ地方ニ移住スレハ又罹ルノ危険アリ
ニ物行カルヤアラス又之ヲ白ハビーリベリノ譫妄症候急性脚気
性脚気ノ輪核症候ハ重ク
豫後論
脚気ノ豫後ハ一般ニ不吉ナリ石川駒次郎氏ニ於テ
ハ脚気病ハ遺伝ノ傾向アリト雖モ治癒ノ例アリ亜氏元弟之地
方ニ於テ脚気病ヲ発セサル家ニ関シテ
同本ノ業部ニ脚気病ヲ発セサル家ニ関シテ
ニモ若シ之ヲ病ニ罹リタル國ニ発ノ(九州ノ一部)ハ施ス時ニ其ノ病前

諸症敬遠ヲ勧ムルノ心厚ク遺ス所ナカラン
如キ人ハ努力シテモ之ヲ Bad habit ニ陥ラ
顧慮動モ迷ヲ来シ五官静物ニ何ノ障害ヲ
来スカ故ニ四肢ニモ屢々青痣ノ軽症ヲ
存スト雖モ息ニ迫ニ主トシテ運動ニ当テ発スル所ト認ム
心嚢ヲ屢々同ジクシテ幽門ノ塵地方ニ頻
痛ヲ伝播病ヲ悪識衰耗
塵則論ス
致ス所ヲ視ルヲ得ル

脚気ハ主トシテ播種ノ故ニ良ナラザル網ヲ主ト病
ニ於テハ同ジク因ヲ来スヲ知ルヲ肝要ト
部ヲ飲水ニ衣服居宅ヲ地形ニ因シ
遂ニ之ヲ改良スルヲ若カズト雖モ高地
ニ移居セシムル叶ハザル Barracks ニ於
ケル高地ニ病院ノ薬ヲ変ジ之ヲ病者ニ注
ス試ニ日本ニ於テモ結氷ノ寒地ニ因テ異
ナルニ切リシ知ル食餌ノ刻注意怪養
メ之ヲ病ニ克ク故ニ前ノ治養食
居屋者
傾物体ヲ節ス卵鮮腊肝上好葡萄

而之而肉汁 beef tea 等ノ語ヲ食ヲ良
ト云ヘルガ大量ニ用イハ害アリ二十位晴ニ
テ多食カラズ三十位迄若シ
ニ牛位僕ノ三ヶ並ヲ金匙許ノ実ヲ挽キ砕キ
鶏肉ハ其ノ割ニ注意シ卵ヲ煮リ熟シ
黄ニ破キ pepsin 焼ノ一種ノ消化剤ヲ加ヘテ
ヲ未カラズヲ煮ル者ハ煮法和知ヲ要ス
beefsteak 焼ノ法ハ周ニ
如ク煮ハ脂肪ヲ加ヘ大
勉強ヲ為ス時ハ附ヲ良ト雖モ之ニ過ルヲ
ヲ為ス各人婦ヲ白ヲ大量ヲ欲ス

故ニ上好ノボートルハ最上ト云ヘル故ニ肥胖ノ家
猪晴ニ良ト雖モ常食ヲ大
和蘭等ノ高書中ニ家豚猪ハ鶏ニ比シ又ハ
ナシトノ由ニ其ノ肉ハ牧畜ノ業盛ナル欧洲ニ
カヲ惟フニ欧米ハ牧畜ノ業盛ナル故ニ
半ヲ要ス故ニ肥養畜ヲ屠ル其ノ利益ヲ
ヲ得ル者ヲ言フ蓋シ豚ハ肉ヲ食ヒ
蕃並ニ異ナルヲ以テ人民競フテ動骨ノ茶肴ト
蓋シ之ニ基ス故ニ如此病ノ為ニ免レサルヲ
牧畜ノ業盛ナル欧米人民ノ食餌ハ植物ニ仰キ
肉多ク魚ハ川魚鳥肉ニ止ル故ニ肉ヲ海ノ養
ノ如ク其ノ食餌ヲ牛ノ業ニ
業盛ニ牛ハ
仰キ其ノ肉ヲ飲ム
御多病ニシテ克ク其ノ能ヲ尽ス
之ノ病ニ於テ

遠ダキノ患者ニ對シ美力
ノ藉テハ Stimulants et toniques
并病ニ勞動シタル脚気ノ對症療ハ勿論朝
テハ食血知覚運動麻痺及ビ心悸亢進ノ
方ニ於テハ水腫及ビ腹水ニ對シ輸機動ヲ
心臓肺臓病水腫ヲ有セザル脚気
病者初期ニ於テハ活ヲ以テ根治ヲ施スヘシ脚気
有力ナル食物ヲ大食セシムル様ニ留意スヘシ
食物ハ白ク調理シタルモノヨリ粗ク精セザルモノヲ可トス
新鮮ナル蔬菜ト煮豆ヲ常ニ食
欲進ムヲ以テ消化能

同上ノ如ク最初ノ徴候ヲ看破セシ
胃部ニ壓痛ヲ覚ユルヤ又ハ
blood & ~~ミヅ~~ ナシ
○橙皮香料 三ノ〇 蒸水 一九〇ノ〇
ヲ克ク混和シ一日三回十三ノ〇食前又ハ信
閉ヲ若シ敗セシムベカラザルトキハ水或ハ有
水ヲ以テ閉ヲ洗ヒ能ク
子ニ加ヘテ或ハ加工ノ仕ヲ以テ
見ル可シ 二ノ〇至四ノ〇而精敗ヲ

ワキ二十五ノ〇 同法ノ前項ノ断書ノ人ニ「ゴガントチン」上好ノ右ノ製葡萄酒ニ着キ同法ノ葡萄酒中ノ「ラクトース」ニ関スル規定ヲ準用スル「ラクトース」ナク又法ノ「ブドー」十二、〇ヲ至四、〇「マテ」ガ酒五〇、〇至百〇ヲ含ノ酒ニ着キ又ハ含ノ酒ニ着キ其ノ酒石酸ノ外ニ遊離酸トシテ「ブドー」酸ヲ含ミ且ツ其ノ「ブドー」酸ノ量ガ酒石酸ノ量ヲ減ジタル残ノ量ヲ超エサルモノニ限ル

葡萄酒ニ関スル規定ハ葡萄酒ニ類スル飲料ニ之ヲ準用ス

血液ヲ発酵シテ製シタル飲料ハ之ヲ販売シ又ハ販売ノ目的ヲ以テ製造シ貯蔵シ若ハ陳列スルコトヲ得ス

第二十六条 食塩ハ之ヲ製造シ販売シ又ハ販売ノ目的ヲ以テ製造シ貯蔵シ若ハ陳列スルコトヲ得ス

二、純粋ニシテ良質ナル食塩ヲ製造スル為ニ必要ナル場合ニ於テハ農商務大臣ハ命令ヲ以テ前項ノ規定ニ依ラサル食塩ヲ製造スルコトヲ許可スルコトヲ得

第二十七条 食塩ハ之ヲ製造シ販売シ又ハ販売ノ目的ヲ以テ製造シ貯蔵シ若ハ陳列スルコトヲ得ス

二、純粋ニシテ良質ナル食塩ヲ製造スル為ニ必要ナル場合ニ於テハ農商務大臣ハ命令ヲ以テ前項ノ規定ニ依ラサル食塩ヲ製造スルコトヲ許可スルコトヲ得

第二十八条 食塩ハ之ヲ製造シ販売シ又ハ販売ノ目的ヲ以テ製造シ貯蔵シ若ハ陳列スルコトヲ得ス

二、純粋ニシテ良質ナル食塩ヲ製造スル為ニ必要ナル場合ニ於テハ農商務大臣ハ命令ヲ以テ前項ノ規定ニ依ラサル食塩ヲ製造スルコトヲ許可スルコトヲ得

第二十九条 食塩ハ之ヲ製造シ販売シ又ハ販売ノ目的ヲ以テ製造シ貯蔵シ若ハ陳列スルコトヲ得ス

二、純粋ニシテ良質ナル食塩ヲ製造スル為ニ必要ナル場合ニ於テハ農商務大臣ハ命令ヲ以テ前項ノ規定ニ依ラサル食塩ヲ製造スルコトヲ許可スルコトヲ得

第三十条 食塩ハ之ヲ製造シ販売シ又ハ販売ノ目的ヲ以テ製造シ貯蔵シ若ハ陳列スルコトヲ得ス

二、純粋ニシテ良質ナル食塩ヲ製造スル為ニ必要ナル場合ニ於テハ農商務大臣ハ命令ヲ以テ前項ノ規定ニ依ラサル食塩ヲ製造スルコトヲ許可スルコトヲ得

第三十一条 食塩ハ之ヲ製造シ販売シ又ハ販売ノ目的ヲ以テ製造シ貯蔵シ若ハ陳列スルコトヲ得ス

二、純粋ニシテ良質ナル食塩ヲ製造スル為ニ必要ナル場合ニ於テハ農商務大臣ハ命令ヲ以テ前項ノ規定ニ依ラサル食塩ヲ製造スルコトヲ許可スルコトヲ得

第三十二条 食塩ハ之ヲ製造シ販売シ又ハ販売ノ目的ヲ以テ製造シ貯蔵シ若ハ陳列スルコトヲ得ス

二、純粋ニシテ良質ナル食塩ヲ製造スル為ニ必要ナル場合ニ於テハ農商務大臣ハ命令ヲ以テ前項ノ規定ニ依ラサル食塩ヲ製造スルコトヲ許可スルコトヲ得

第三十三条 食塩ハ之ヲ製造シ販売シ又ハ販売ノ目的ヲ以テ製造シ貯蔵シ若ハ陳列スルコトヲ得ス

二、純粋ニシテ良質ナル食塩ヲ製造スル為ニ必要ナル場合ニ於テハ農商務大臣ハ命令ヲ以テ前項ノ規定ニ依ラサル食塩ヲ製造スルコトヲ許可スルコトヲ得

第三十四条 食塩ハ之ヲ製造シ販売シ又ハ販売ノ目的ヲ以テ製造シ貯蔵シ若ハ陳列スルコトヲ得ス

二、純粋ニシテ良質ナル食塩ヲ製造スル為ニ必要ナル場合ニ於テハ農商務大臣ハ命令ヲ以テ前項ノ規定ニ依ラサル食塩ヲ製造スルコトヲ許可スルコトヲ得

第三十五条 食塩ハ之ヲ製造シ販売シ又ハ販売ノ目的ヲ以テ製造シ貯蔵シ若ハ陳列スルコトヲ得ス

二、純粋ニシテ良質ナル食塩ヲ製造スル為ニ必要ナル場合ニ於テハ農商務大臣ハ命令ヲ以テ前項ノ規定ニ依ラサル食塩ヲ製造スルコトヲ許可スルコトヲ得

第三十六条 食塩ハ之ヲ製造シ販売シ又ハ販売ノ目的ヲ以テ製造シ貯蔵シ若ハ陳列スルコトヲ得ス

二、純粋ニシテ良質ナル食塩ヲ製造スル為ニ必要ナル場合ニ於テハ農商務大臣ハ命令ヲ以テ前項ノ規定ニ依ラサル食塩ヲ製造スルコトヲ許可スルコトヲ得

第三十七条 食塩ハ之ヲ製造シ販売シ又ハ販売ノ目的ヲ以テ製造シ貯蔵シ若ハ陳列スルコトヲ得ス

二、純粋ニシテ良質ナル食塩ヲ製造スル為ニ必要ナル場合ニ於テハ農商務大臣ハ命令ヲ以テ前項ノ規定ニ依ラサル食塩ヲ製造スルコトヲ許可スルコトヲ得

第三十八条 食塩ハ之ヲ製造シ販売シ又ハ販売ノ目的ヲ以テ製造シ貯蔵シ若ハ陳列スルコトヲ得ス

二、純粋ニシテ良質ナル食塩ヲ製造スル為ニ必要ナル場合ニ於テハ農商務大臣ハ命令ヲ以テ前項ノ規定ニ依ラサル食塩ヲ製造スルコトヲ許可スルコトヲ得

第三十九条 食塩ハ之ヲ製造シ販売シ又ハ販売ノ目的ヲ以テ製造シ貯蔵シ若ハ陳列スルコトヲ得ス

二、純粋ニシテ良質ナル食塩ヲ製造スル為ニ必要ナル場合ニ於テハ農商務大臣ハ命令ヲ以テ前項ノ規定ニ依ラサル食塩ヲ製造スルコトヲ許可スルコトヲ得

第四十条 食塩ハ之ヲ製造シ販売シ又ハ販売ノ目的ヲ以テ製造シ貯蔵シ若ハ陳列スルコトヲ得ス

二、純粋ニシテ良質ナル食塩ヲ製造スル為ニ必要ナル場合ニ於テハ農商務大臣ハ命令ヲ以テ前項ノ規定ニ依ラサル食塩ヲ製造スルコトヲ許可スルコトヲ得

第四十一条 食塩ハ之ヲ製造シ販売シ又ハ販売ノ目的ヲ以テ製造シ貯蔵シ若ハ陳列スルコトヲ得ス

二、純粋ニシテ良質ナル食塩ヲ製造スル為ニ必要ナル場合ニ於テハ農商務大臣ハ命令ヲ以テ前項ノ規定ニ依ラサル食塩ヲ製造スルコトヲ許可スルコトヲ得

第四十二条 食塩ハ之ヲ製造シ販売シ又ハ販売ノ目的ヲ以テ製造シ貯蔵シ若ハ陳列スルコトヲ得ス

二、純粋ニシテ良質ナル食塩ヲ製造スル為ニ必要ナル場合ニ於テハ農商務大臣ハ命令ヲ以テ前項ノ規定ニ依ラサル食塩ヲ製造スルコトヲ許可スルコトヲ得

第四十三条 食塩ハ之ヲ製造シ販売シ又ハ販売ノ目的ヲ以テ製造シ貯蔵シ若ハ陳列スルコトヲ得ス

二、純粋ニシテ良質ナル食塩ヲ製造スル為ニ必要ナル場合ニ於テハ農商務大臣ハ命令ヲ以テ前項ノ規定ニ依ラサル食塩ヲ製造スルコトヲ許可スルコトヲ得

第四十四条 食塩ハ之ヲ製造シ販売シ又ハ販売ノ目的ヲ以テ製造シ貯蔵シ若ハ陳列スルコトヲ得ス

二、純粋ニシテ良質ナル食塩ヲ製造スル為ニ必要ナル場合ニ於テハ農商務大臣ハ命令ヲ以テ前項ノ規定ニ依ラサル食塩ヲ製造スルコトヲ許可スルコトヲ得

第四十五条 食塩ハ之ヲ製造シ販売シ又ハ販売ノ目的ヲ以テ製造シ貯蔵シ若ハ陳列スルコトヲ得ス

二、純粋ニシテ良質ナル食塩ヲ製造スル為ニ必要ナル場合ニ於テハ農商務大臣ハ命令ヲ以テ前項ノ規定ニ依ラサル食塩ヲ製造スルコトヲ許可スルコトヲ得

第四十六条 食塩ハ之ヲ製造シ販売シ又ハ販売ノ目的ヲ以テ製造シ貯蔵シ若ハ陳列スルコトヲ得ス

二、純粋ニシテ良質ナル食塩ヲ製造スル為ニ必要ナル場合ニ於テハ農商務大臣ハ命令ヲ以テ前項ノ規定ニ依ラサル食塩ヲ製造スルコトヲ許可スルコトヲ得

第四十七条 食塩ハ之ヲ製造シ販売シ又ハ販売ノ目的ヲ以テ製造シ貯蔵シ若ハ陳列スルコトヲ得ス

二、純粋ニシテ良質ナル食塩ヲ製造スル為ニ必要ナル場合ニ於テハ農商務大臣ハ命令ヲ以テ前項ノ規定ニ依ラサル食塩ヲ製造スルコトヲ許可スルコトヲ得

第四十八条 食塩ハ之ヲ製造シ販売シ又ハ販売ノ目的ヲ以テ製造シ貯蔵シ若ハ陳列スルコトヲ得ス

二、純粋ニシテ良質ナル食塩ヲ製造スル為ニ必要ナル場合ニ於テハ農商務大臣ハ命令ヲ以テ前項ノ規定ニ依ラサル食塩ヲ製造スルコトヲ許可スルコトヲ得

第四十九条 食塩ハ之ヲ製造シ販売シ又ハ販売ノ目的ヲ以テ製造シ貯蔵シ若ハ陳列スルコトヲ得ス

二、純粋ニシテ良質ナル食塩ヲ製造スル為ニ必要ナル場合ニ於テハ農商務大臣ハ命令ヲ以テ前項ノ規定ニ依ラサル食塩ヲ製造スルコトヲ許可スルコトヲ得

第五十条 食塩ハ之ヲ製造シ販売シ又ハ販売ノ目的ヲ以テ製造シ貯蔵シ若ハ陳列スルコトヲ得ス

二、純粋ニシテ良質ナル食塩ヲ製造スル為ニ必要ナル場合ニ於テハ農商務大臣ハ命令ヲ以テ前項ノ規定ニ依ラサル食塩ヲ製造スルコトヲ許可スルコトヲ得

(鉄)炭酸鉄 馬者克ノ新一得ル者ヲ撰リ和ヤリ然ル
0,一三0至一四0ヲ日ニ二三回ニテ
(炭)乳酸鉄 0,一0ヲ日ニ二三回
幼度在而ハ先ヅ之ヲ與用ノ上
凡乳酸鉄一ノ0ヲ用製ニカ大0ノ三粒(倫僕)
ヲ健知並ニ元盛ヲ為ス四十五花日ニ三回五粒
(酵)枯草(酢酸)現剤(酢酸)鉄之ヲ撰ス仏バクテリア医ノ発明ニナル四方形
之ヲ用ヒ nerro chromatique 現ス
現ス 効力ノ有ル之ヲ用ヒ神主血液ヲ浄化シ血液ヲ増加シ
ガラナト右ノ如キ者モノ有ル 0,一三0至0,一三五日
ニ二三回 午ノ一九ヲ新剤ニ便秘ヲ起カノ患ヒ

信法規則幾ヶ
條文カリガキ
メ仁ヶ(ニ)ニ根
ラカ而砂糖
規則改ヲリナル

凡復法規則ヲ幾ヶ條ヲ設ケ
ヲ白三回 0,一五至0,二0ヲ日ニ三回 食後ニ服
ン他剤ヲ子ニテ血液製造ヲ促ス(ニ)ニ時ニ飯
ん動剤ヲ同一ニ食欲障害ヲ起サヽル様ニ注意
た(ニ)其モヲ善ヲ食ヲタヽノ如シ
(鬼)水壺還元鉄 胃酸吸収ヲ易ニ尚ヲ
至0,三二0ヲ日ニ三四回ニ服ス

やう着ニセヨ　ヤウ　ヤウ　ヤウ

四、〇日三回浴
呈示ノ心ヲ度ト
望揚ノ心ヲ良
又第三ノ患者
ニハ良ト
スル運動療
アルハ療シ
ヤリ経験ニ
ニハ心ヲ
注意肘ヤ
ノ二ハ
ノ二ハ

温ヲスル部ハコンヤッキ」ヲ
ト王ノ屡ニ並ニ向ニ方ヨリ
温浴ヲ之ヲ施シ向
ニ療法ハ療痺ニ功
ニ由ヲ先ノ法ヲ
ト王ノ二ハ
ヲ若クハ向ヒ
ニ

温ヲスル部ハコンヤッキ」ヲ
ト王ノ屡ニ並ニ向ニ方ヨリ
温浴ヲ之ヲ施シ向
ニ療法ハ療痺ニ功
ニ由ヲ先ノ法ヲ
ト王ノ二ハ
ヲ若クハ向ヒ
ニ

向ニ或ハ之ヲ施向ヲ運動療痺ヲ起セル患
者ヲ日ニヲ療ヲ行シ得ルノ作業ヲ知
ル療ヲ施スヲ
〇、〇〇一ヲ
於ヲハ
ヲ重ヲ
ハ疲労ヲ
ニ注意ヲ
功アリトヲ
ヲ二期ニ
ル療ヲ施スヲ
〇、〇〇一ヲ
於ヲハ
ヲ重ヲ
ハ疲労ヲ
ニ注意ヲ
功アリトヲ
ヲ二期ニ

ニ〇一ニ位ニ之ヲ使用スルニ於テハ断然驅逐ス可キ腹痛及
泌尿器炎症ヲ防止シ訶子ハ二朝ニ閉ニモ亦壯
劑有ニ入テ元ニ利尿鉄剤ヲ以テスルニ訶子
tourtarès ferralisé, tourtarès ferrugineux, tourtarès ferrugineux, tourtarès ferrugineux

多シ五六一ニ R 稍 放加里 十三、〇至三
二、〇 海葱 稍著シク四、〇 宇美多浸ス
（キヲ主ニ
浸ス也） 百九十、〇ヲ毎朝一食トシテ
又 R 橘皮 加里四、〇至十二、〇 宇美子炙
四日至一ノ〇 海葱 稍減シ二四、〇 杜松子
浸百九十、〇ヲ毎晩一食トシテ之ノ服ス
勇子尤ノ体内ヲ清ス
温由ヲ塗リ克ク之ヲ摩擦シ水膿稍退
散（前ノ柔軟ヲ主トス）
纏回スヘシ 若シ朝ニ於テハ通常ニ帳ル

盛衝ク増加シ 若シ功ナシ如キ者
ニアラサルヲ教ヘ同ニ之ヲ勉功
ヲ奏スルヲ得ヘシ
之ヲ与ヘ医自ラ患者ニ与ヘ一時ヲ測リ脈ノ
用量ノ増減ヲ定ムヘシ 通常ハ一時間
ニ一回或ハ二回ヲ与ヘ一週脈ノ正シキヲ
待テ大豆ノ患者ニ多クノ之カ物ヲ施シ
又ハ吐カシムル故ニ之ヲ速ニ服用シ止メシム
之ノ服前ニ炭酸水又ハ橘散ヲ与ヘ物ヲ
制ヘシム克ク彼ノ薬服用ニ耐ユヘシ然ル

浴ノ吐ヲ止メ
テトロフヒラ
ス又ハ注射
トス

尚ホ效功ヲ奏スルニ至ラサレハ更ニ
五ニ乃至七ニ丁ニ至ル迄ヲ以テ一劑トシ
之ヲ服用セシムルモ亦可ナリ其他ノ
方法ハ前ニ述ヘタル處ニ準ス
「ハリスリン」ト稱スル健胃劑ヲ用ユル
尚ホ效方ノ少キ場合ニハ「ストリキニン」
四、〇乃至六、〇ヲ一日量トシ皮下ニ注射
セシムルモ可ナリ
橙皮舌刺(舐)劑
毎時十六、〇(滴)

○

十四、薄荷水　三〇、〇　橙皮水　百九十、〇
毎時十二、〇(滴)
又ハ
十二、〇乃至二〇、〇ヲ一日量トシ食後
盛糖ニ乗シ又ハ水或ハ湯ヲ用ヒ一回服
ノ如クシ胸部煩悶甚シク迫ル
胸部ヲ温ムル電気ヲ通ス又ハ氷雪奄法
ヲ行ヒ或ハ「ホットウオーター」ノ嚢ヲ胃ト
シ軽シク摩擦スルモ可ナリ
皮ニ注射(オレヨンナノヒニスポリナオヨニ)
胸部ニ施術ヲ要セス

中ヲコロシ「ヨロヒ」ト「フユラトリ」ヲユリ
ヒテ後ノ仕剤ヲ用ユ明ニシテ大ニ功ヲ致ス又第ニ
意寿酒ノ如キ多ク元精ヲ損スル者モ上方ヲ以テ良ト
シ服ノ中ハ房ヲ免レ麻実芝蒼或ハ「フユラトリ」ヲユリ
ヒテ多ク害アリ」心喪水腫
徐発ノ腫瘡法ノ施シ難キ頻発
スル中ハタタ死ヲ乾角ヲ貼シ四キ
スタンヒヤニシテ施スヘキ他策ナシ或ハ実症劇
毒ニシテ若同ニ耐ヘサルモノハ軽量ニ刺絡ヲ
試ミ服ニ血衝ヲ貼スルノ説アルモ多ク功ナシ

皿ノ如キ奪血法ヲ行フヘシ血液ノ減少
ナラシメ湯物ヲ増ス恐アリ腹水腫モ徐
発急発ニ非ス慢法ノ異ナル者ニシテ慢性ナルヒ
ト peritonitis 性疾ノ前駆ニ
過ヲ精ト仕ニ用ヲ大ニ功アルヲ助ケ凡
吐根末二〇至一〇〇ヲ千カ根四弐度二五〇〇
砂加過ヲ精四〇〇吐酒石酒十二〇〇ヲ毎
時一食トシテ又方吐根末二〇至一〇〇アルヒカ
花酒二五弐精二五〇ヲ砂加過ヲ精四〇〇糖
安香三二〇ヲ加一ヲ毎時一食トシテ之ノ方ハ

殊ニ肥水腫ノ為ニ切ラレ
若ク急発ニ社疾刺絡ス切ナ
吐剤ヲ用ニ他ノ盥子稍ヤ閉ス
ラレ若ク之ノ急性ニ脊血ヲ大ニ害
ス若ク之ノ臓ノ麻痺漸ク細ソトナリ
死ニ付カントスル時ハ竜驚ホソ与ヘシ上ノ
治法ハ皆ナ慢性病多ク遊中ニ突然急
性病ヲ治スルニ於テモ之ヲ大ニ差アルニカラズ
只解熱ノ為ニ現ル少ク捉ヘタルノミ其他ノ
脈ヲ為ニ脇肉ヲ許スノ量ニ到ル緒シ

血剤ヲ施スモ敢テ危険ナラシム立ノ在辺
急ナル故ニ勉メテ摂生食餌ニ注意スレ
今瘧則論ヲ結ブニ当テ一二ノ特功ヲ挙ケ
論セント欲スルニ Klebs-Laveran (クレブス・ラベラン) Plasmodium malariae (プラスモディウム・マラリエ) Golgi (ゴルジ) Marchiafava (マルキアファヴァ) Celli (チェリ) Antolisei (アントリセイ) Argentorato (アルゼントラート) Treatise (トリーティス) Quinine (キニーネ) Arrhenius (アレニウス) Ziemssen (ツィームセン) Hemiplegia (ヘミプレジア) Hemianesthesia (ヘミアネステジア) Hemianopsia (ヘミアノプシア) Hemiataxia (ヘミアタクシア) Hemiparesis (ヘミパレシス) Hemichorea (ヘミコレア) Hemiathetosis (ヘミアテトーシス) Hemiplegia cerebralis (ヘミプレジア・ケレブラリス) Hemiplegia spinalis (ヘミプレジア・スピナリス) Hemiplegia hysterica (ヘミプレジア・ヒステリカ) Hemiplegia epileptica (ヘミプレジア・エピレプティカ) Hemiplegia migrans (ヘミプレジア・ミグランス) Hemiplegia alternans (ヘミプレジア・アルテルナンス) Hemiplegia cruciata (ヘミプレジア・クルキアタ) Hemiplegia paralytica (ヘミプレジア・パラリティカ) Hemiplegia spastica (ヘミプレジア・スパスティカ) Hemiplegia flaccida (ヘミプレジア・フラッキダ) Hemiplegia atrophica (ヘミプレジア・アトロフィカ) Hemiplegia hypertrophica (ヘミプレジア・ヒペルトロフィカ) Hemiplegia hypotrophica (ヘミプレジア・ヒポトロフィカ) Hemiplegia hypertonica (ヘミプレジア・ヒペルトニカ) Hemiplegia hypotonica (ヘミプレジア・ヒポトニカ) Hemiplegia hypertonica spastica (ヘミプレジア・ヒペルトニカ・スパスティカ) Hemiplegia hypotonica flaccida (ヘミプレジア・ヒポトニカ・フラッキダ) Hemiplegia hypertonica atrophica (ヘミプレジア・ヒペルトニカ・アトロフィカ) Hemiplegia hypotonica hypertrophica (ヘミプレジア・ヒポトニカ・ヒペルトロフィカ) Hemiplegia hypertonica hypotrophica (ヘミプレジア・ヒペルトニカ・ヒポトロフィカ) Hemiplegia hypotonica hypotrophica (ヘミプレジア・ヒポトニカ・ヒポトロフィカ) Hemiplegia hypertonica hypertrophica (ヘミプレジア・ヒペルトニカ・ヒペルトロフィカ)
於テ之ヲ試ミタル者ハ未タ之ヲ得サルカ故ニ未タ之ヲ試ミタ
ル者ハ皆ナ之ヲ信セス而シテ之ヲ試ミタル者ハ前論
ノ治法ヲ以テ足レリトセサルナリ然ラハ則チ Quinine (キニーネ) Arrhenius (アレニウス) Ziemssen (ツィームセン) Hemiplegia (ヘミプレジア) Hemianesthesia (ヘミアネステジア) Hemianopsia (ヘミアノプシア) Hemiataxia (ヘミアタクシア) Hemiparesis (ヘミパレシス) Hemichorea (ヘミコレア) Hemiathetosis (ヘミアテトーシス) Hemiplegia cerebralis (ヘミプレジア・ケレブラリス) Hemiplegia spinalis (ヘミプレジア・スピナリス) Hemiplegia hysterica (ヘミプレジア・ヒステリカ) Hemiplegia epileptica (ヘミプレジア・エピレプティカ) Hemiplegia migrans (ヘミプレジア・ミグランス) Hemiplegia alternans (ヘミプレジア・アルテルナンス) Hemiplegia cruciata (ヘミプレジア・クルキアタ) Hemiplegia paralytica (ヘミプレジア・パラリティカ) Hemiplegia spastica (ヘミプレジア・スパスティカ) Hemiplegia flaccida (ヘミプレジア・フラッキダ) Hemiplegia atrophica (ヘミプレジア・アトロフィカ) Hemiplegia hypertrophica (ヘミプレジア・ヒペルトロフィカ) Hemiplegia hypotrophica (ヘミプレジア・ヒポトロフィカ) Hemiplegia hypertonica (ヘミプレジア・ヒペルトニカ) Hemiplegia hypotonica (ヘミプレジア・ヒポトニカ) Hemiplegia hypertonica spastica (ヘミプレジア・ヒペルトニカ・スパスティカ) Hemiplegia hypotonica flaccida (ヘミプレジア・ヒポトニカ

水腫 運動 知覚麻痺
慢性 助功アリ 外ニ左法ヲ良トス 凡ゼチ
乙十二、〇 磷酸加里 〇、三 餌水 百、〇
ヲ日ニ三回ニ服ス ゼチル 慢性脳脊ノ方
二効アリ 急性ハ勿論ニ詳ナラス トレヤ
ス、フアロークル ハ 稍厚セルヤ 覚ス ヲノ
ハ ハ多量ノ ストリキニーネン ヲ 使用ス 合ハ真
生成方ハ別ニ ヨリモ ヨリモ ヨリモ
ニ於テ製シ 要ス 麻痺ニ 効度
搬ル之ヲ用ヒ 切度地ノ 匪ヲ 覚ヨリ ヲ
慢性症ニ 効アリ 急性ニ 確効ナシ 而ヲ之ヲ服

ス、前ニ由テ水腫知覚運動麻痺
之ノ前ニ由テ 治セリ 常ト 通常一日
四回 便通ス 下利セサル 之ヲ 通ノ
為ノ 衰弱ヲ 脈遅ク 十六ヤ 患者帆
復ニ 廻ヲ着ク 用ヒヤスク 法左如シ
凡ソ ヒレヤスク ヲ 閉法如シ
支末 一ノ三 丁子末 一ノ四 白密 適五右 煎
煎 毎朝 桂
量七 一日 三回 三〇 ヲ用ニ 或ハ人ニ 白密ヲ 煎

ハ之島ハ慢性淋ノ請求功十キモノニ時ノ
功アリトセラル（十時ニ服ス）脚気ノ遠ク心臓ニ及ヒ
通常一四日ニ百粁上ノ勝ヲ（十五粁ハ五粁
ハ之ヲ一粁ニ換算ス）一種ノ奨励ヲ
後ノ詳ナル（ハ之）一種ノ奨励ヲ
真ノ成分ハ詳ニセサルヲ故ニ本土
ニ於ケル之ヲ混セシ者ナル名ヲ以テ
及ヒタリトセラル（ハ之）一種ノ奨励ヲ
他ノ妙薬ト同シク改良ヲ
ハ勿論ノ知ル所ニシテ願ハ改良ヲ
ハ等ニ於テ試験シ十八日ノ幸

福ト云フニ「エラトリ」香光色ハ毎時四分ノ一
ツ閉ス之ヲ開ケハ海下ヲ発タルカ故ニ
三月又ハ四月ノ頃ノ服用ヲ正ノ四五日ヲ経テ
再ニ開ケヒ之ヲ繰返シ其ノ精効試験ヲ遂
ケサンカテ布哇者ニ服用ヲ注イテ効
励ヲ一ヒ認ク（ハ之）下ノ向ヲ助
ケラレンカ

治験録

吾カ友出川氏曾テ脚気ヲ病メリ
治メ治三年十三年二月ヨリ其
ノ軽微ヲ昱ルニ足脚麻痺ヲ起セリ
依テ亢憤剤ノ注射ヲ施シ尚ホ益ス
ヲ致サヽルヲ以テ同氏歩行ヲ試ムルニ大ニ
絶ヘ艱ミ歩行スルヲ得ス遂ニ全快
ヲ告ケタリト